

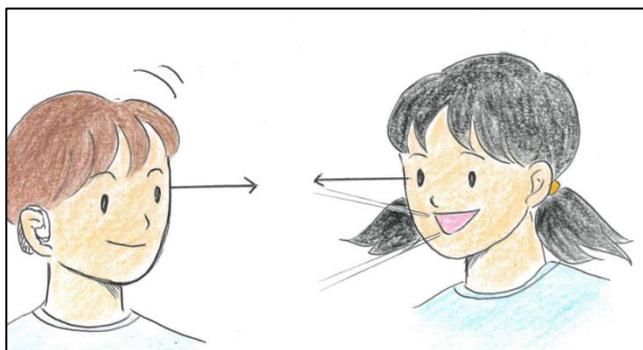
きこえにくさのある子どもが安心して学校生活を送るために

【 難聴児支援リーフレット 山形県立山形聾学校 】

補聴器や人工内耳を装用していても、きこえの程度は一人一人違うため、個に応じた支援が必要です。一例ではありますが、どんな場面で困り感を感じ、どのような支援を必要としているのか、ご紹介します。

目と耳できいています

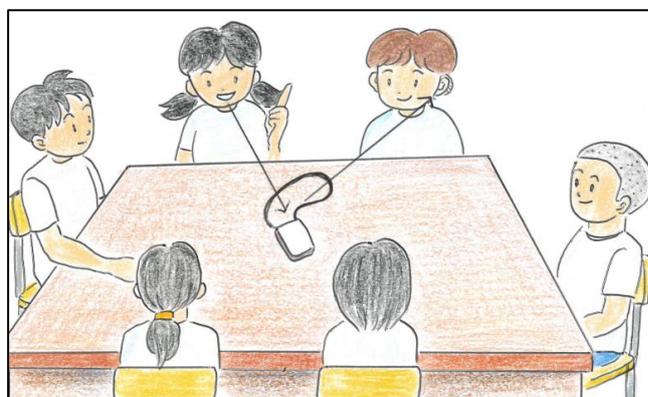
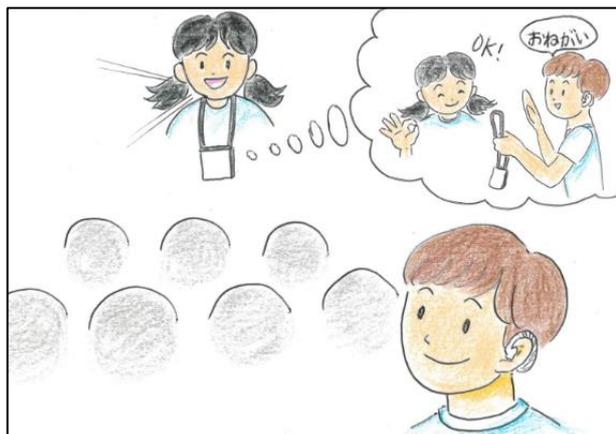
周りの音と人の声をきき分けることが難しいです。後ろから話しかけられていることに気付かず、無視したと誤解されてしまうことがあります。



顔の見える位置で、少しゆっくり話してもらうことで、きき取りやすくなります。口の動きを見て、話題からことばを類推してきき取っています。

補聴援助システムの活用

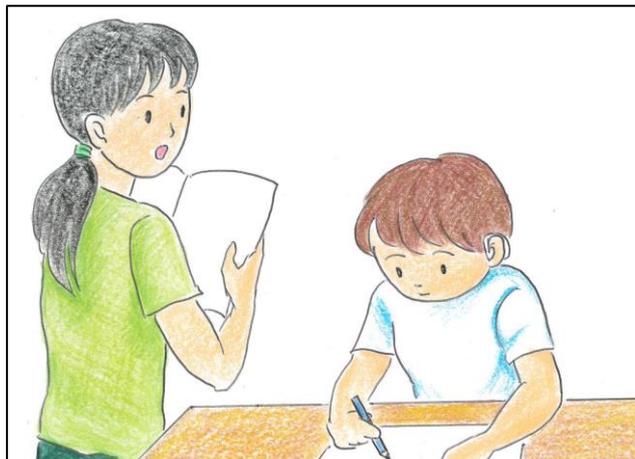
補聴マイクなどを使うと友達の声がききとりやすくなります。



少人数のグループでの話し合いの際に補聴マイクなどを交代で使うようにすると、話の内容が分かりやすくなります。

〇〇しながら書くことは難しいです

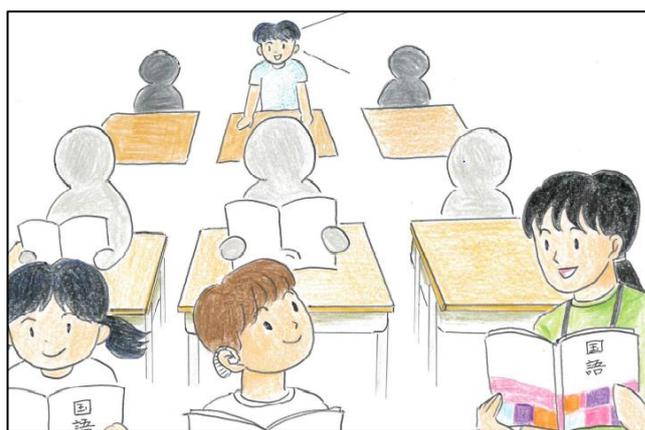
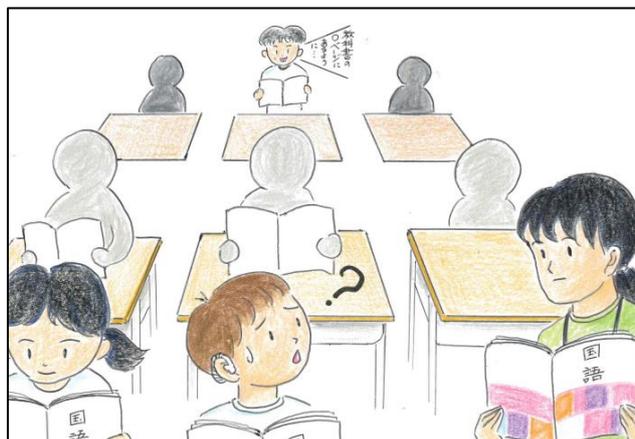
書きながら、調べながら、作業をしながらなど「〇〇しながら書く」ことが難しいです。例えば、ノートやプリントを書いたり計算問題に取り組んだりしているときには、書くことや計算に集中しているため、指示をきいていたとしても、聞き間違いや聞き漏らしがあります。



机間指導の際には合図などをして、必ず目が合ってから、話しかけます。先生を見てきくと分かりやすくなります。また、「ききながら〇〇する」ことも難しいです。例えば、きいたことをメモに取るときは、話をきいた後にメモを取る時間を設けるとよいでしょう。

音読

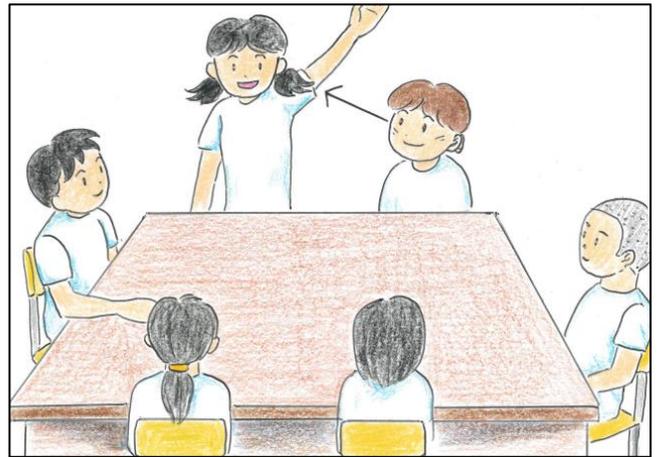
みんなで順番に音読するときは、ドキドキします。誰がどこを読んでいるのか、分かりにくいからです。



事前に音読する順番やどこを読むのか分かると安心です。どこを読んでいるのか随時教えてもらえるとさらに安心できます。

グループでの話し合い

一斉に話をしている場面では、何を話しているのか分からず、誰を見て話をきくといいのか迷ってしまいます。



グループでの話し合いでは、「挙手などの合図をして一人ずつ発言する」ことで分かりやすくなります。

音韻や音程のきき分けは難しいです

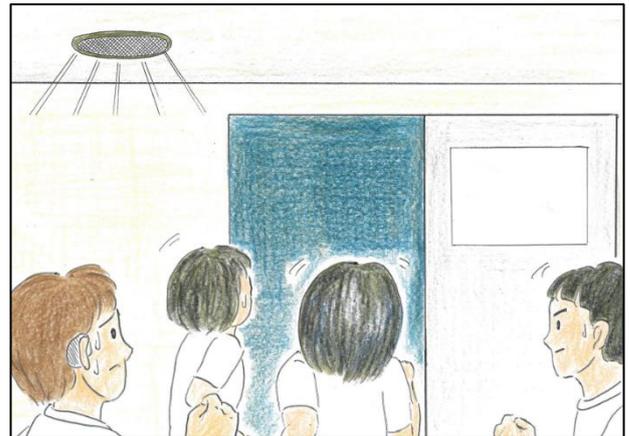
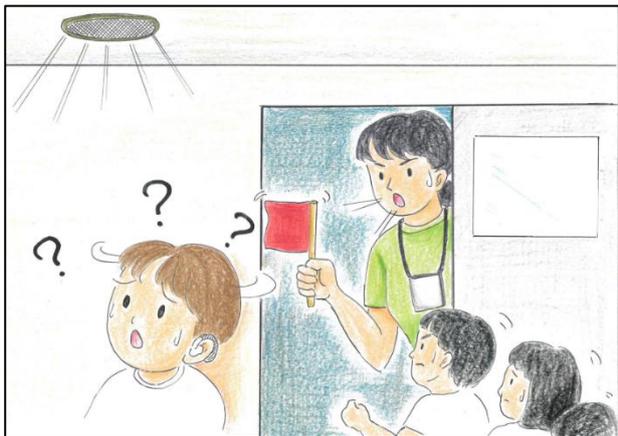


英語の授業では、CDより肉声の方がききとりやすく、英単語の発音や英文の音読をするときには、カタカナで読み方が示してあると分かりやすいです。友達とのゲームや会話では、読み方がカタカナで記された英単語のカードやCDの会話文のプリントなどの補助教材、答えを書いて示すホワイトボードがあると参加しやすいです。

音楽の授業では、メロディーは分かりにくいですが、リズムは感じるができます。合唱や合奏の時は、自分の声や音と友達の声や音が混ざって聞こえています。自分の聞こえだけではよく分からないことが多いので、出だしの音や合図があると分かりやすくなります。



緊急時（避難訓練）

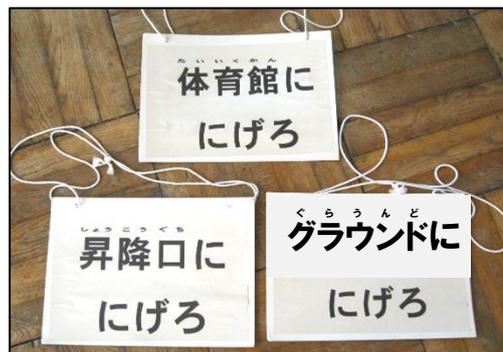


緊急放送は気付かないことがあり、たとえ音として聞こえたとしても内容まで聞き取ることは難しいです。情報を得られずに、突然、周りの友達が教室から避難を始める様子を見て、不安な気持ちのまま理由も分からずに友達の後を追って行くことになります。



何が起きていて、どこに避難するのかといった情報が分かると、落ち着いて避難することができます。離れた場所からの指示はきこえにくいので、緊急時にはできるだけ近くで、身ぶりや指さしなどをして、短くはっきりと指示するようにします。

本校では、教員が避難場所のカードを身に付けて避難しています。どこに避難すればよいのか、一目でわかります。



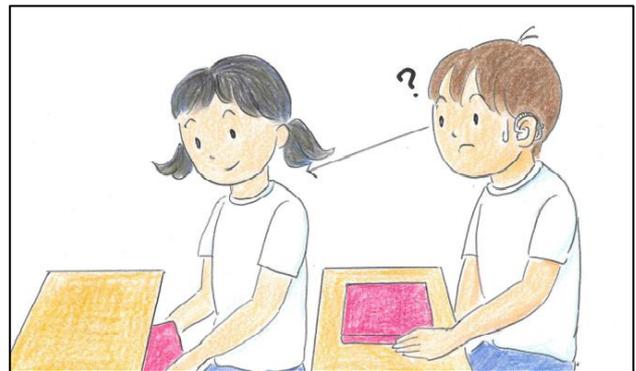
座席の工夫

補聴器や人工内耳は、ききたい音や声だけきこえるのではなく、教室の騒音も混ざってきこえてきます。

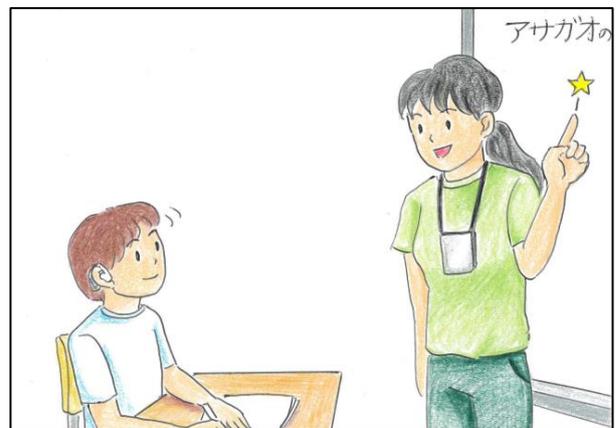


机や椅子にテニスボールをつけると消音材になります。椅子を引く音や机の移動による音が軽減されます。

座席は1番前よりも前から2番目の席の方が、周りの友達の様子から何をすればいいのかが分かり、手がかりになります。また、先生の口元や表情が見やすく、声が聞き取りやすいです。

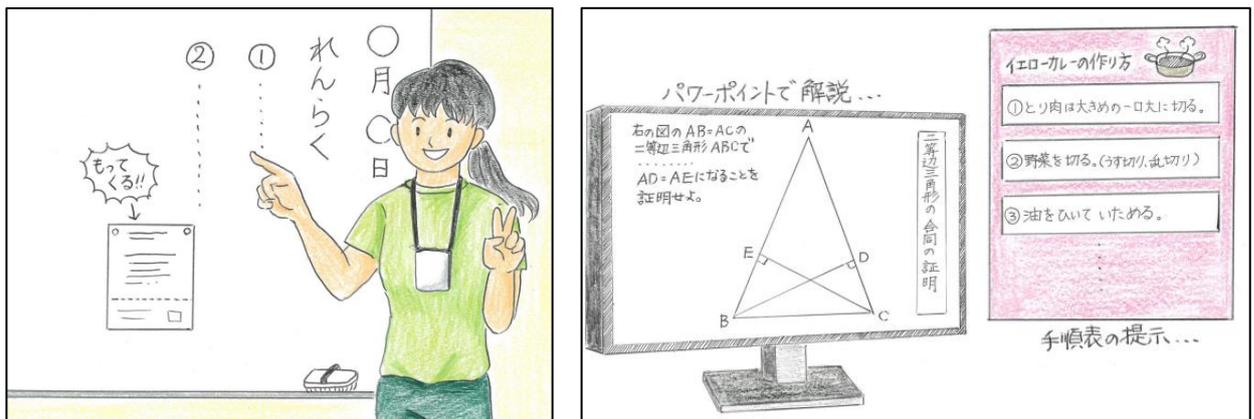


授業での工夫 その1



口の動きや表情が見える位置で話すようにします。目と目が合ってから話し始めます。また、光源に背を向けて話すと逆光になり、表情が見えにくくなります。

授業での工夫 その2



文字や絵などの視覚的な手がかりがあると理解しやすくなります。大事なことは音声のみで伝えず、見て分かるものを使いながら分かりやすく伝えます。

授業での工夫 その3



後ろからの声はきこえにくく、友達の発表がきき取れない、気付かないことがあります。きき取りは、「騒音」や「話者からの距離」、「話すスピード」に大きく影響を受けます。先生が必要に応じて発表内容をまとめて話す、繰り返すといった支援が正しく理解することに繋がります。

難聴児支援についてのお問い合わせ、きこえに関する相談をお受けします。
聴覚障がい理解のための教職員向け研修や出前授業なども行っています。
山形県特別支援巡回相談事業をぜひご活用ください。

山形県立山形聾学校

〒990-2314 山形県山形市大字谷柏 20 番地

TEL: (023)688-2316 FAX: (023)688-2841

URL: <http://www.yamagata-sd.ed.jp>

E-mail: yyamaro@pref-yamagata.ed.jp



山形聾学校ホームページ
QRコード